

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	工場等の転用による大学キャンパス計画と都市再生に関する研究
Title(English)	A STUDY ON UNIVERSITY CAMPUS PLANNING AND URBAN REGENERATION THROUGH CONVERSION OF INDUSTRIAL BUILDINGS
著者(和文)	三井健吾
Author(English)	Kengo Mitsui
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第12565号, 授与年月日:2023年9月22日, 学位の種別:課程博士, 審査員:斎尾 直子,大佛 俊泰,安田 幸一,塚本 由晴,那須 聖
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第12565号, Conferred date:2023/9/22, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

## 論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	三井健吾		
論文審査 審査員		氏名	職名		氏名	職名
	主査	齋尾 直子	教授	審査員	那須 聖	准教授
	審査員	大佛 俊泰	教授			
		安田 幸一	教授			
		塚本 由晴	教授			

### 論文審査の要旨（2000字程度）

本論文は、「工場等の転用による大学キャンパス計画と都市再生に関する研究」と題し、以下の5章から構成されている。

第1章「序論」では、研究の背景と目的、本研究の位置付け及び研究の方法について述べている。研究の背景としては、近年、使われなくなった工場や倉庫といった工業系用途の建物を大学キャンパスへと転用する事例（以下、工場等転用キャンパス）が諸外国各都市で見られるようになり、この現象は、産業構造の変化に応じた空間需要に対する施設整備に留まらず、ブラウンフィールドへの大学の進出が原動力となり、都市の環境、経済、文化等の再生を図る動きと捉えられること等を述べている。このような背景をもとに本研究では、工場等転用の全体像を把握し、大学キャンパス計画と都市計画との関係性を明らかにすることで、大学生活の場として都市再生を進めるための計画要件を明らかにするという研究目的について述べている。

第2章「工場等の転用による大学キャンパス再編の国際的動向」では、工場等転用キャンパスの全体像や多様性を把握し、その形態や立地、位置付けを明らかにするため、15か国36大学（38大学キャンパス）を対象とした調査、分析を行っている。その結果、製造工場を主とする工場等の特徴を活かした転用事例が1980年代後半から近年まで継続して見られること、また大都市に立地する事例が多くを占め地方都市にはあまり見られないこと、市庁舎等から4km圏内の都市中心部での立地が多いこと等を明らかにしている。さらに、同一都市内に複数の大学キャンパスを有する「複数型」大学の分布形態に着目した分析では、工場等転用キャンパスを、新たに都心再生を図るべき地区に進出させる動きや、郊外部から都市中心部に新キャンパスとして開設する動き等、その特徴を明らかにしている。

第3章「工場等の転用による大学キャンパス計画と都市計画との関係性」では、第2章における研究対象のうち、米国3大学キャンパス、ACD(Art Center College of Design)・CCA(California College of the Arts)・UWT(University of Washington Tacoma)を対象とし、都市におけるキャンパスの位置付けやキャンパス整備の実態を明らかにするため、立地する自治体側の都市計画（エリアプラン、ゾーニングマップ）における大学に関する記述内容、施設情報、土地利用計画と、大学側のキャンパスマスタープラン（以下、CMP）について分析を行なっている。その結果、都市に大学が立地することの利点を活かし、キャンパスと地域コミュニティとのハード・ソフト両面での連携

を促進する視点が都市計画側に組み込まれていること、工場等を転用した大学施設整備を中心にその徒歩圏内に学生寮等の整備を進めることで、大学生活の場として旧工業地域が変容していく実態と課題を明らかにしている。

第4章「キャンパスマスタープラン承認手続きを通じた市民参画の実態と地域における大学の役割」では、第3章の研究対象である3事例のうち2大学キャンパス（ACD・CCA）に焦点をあて、立地自治体におけるCMPに関する計画制度とCMP承認手続きにおける市民参画の実態を明らかにするため、立地自治体におけるCMPに関する土地利用関連法、CMP承認手続きに係る都市計画委員会公聴会の録画・録音データを分析している。その結果、CMPに関する公聴会においては、近隣住民を中心とする市民からCMPに対する多様な意見陳述が行われていること、工場等の転用による大学キャンパス整備に対し、専門家だけではなく市民が評価する仕組みが機能していること等、その実態と課題を明らかにしている。

第5章「結論」では、各章で得られた結果の総括、総合的な考察及び今後の展望を述べている。

以上要するに、本論文は詳細な調査と分析を通して、建物単位での工場等転用を通じた柔軟な大学キャンパス整備と、大学生活の場としての都市再生、都市計画制度における大学及びCMPの位置付けと都市との関係性に関する知見を提示しており、工学、特に、建築・都市計画分野において貢献するところが大きい。よって、博士（工学）の学位論文として十分価値のあるものと認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。